

# 森吉山麓 遺跡の里コース

森吉山麓



## コースの概要

秋田から五城目町に入り山間を貫く国道285号線を北上します。やがて鷹巣町に入り大館能代空港へのアクセス道路を西へ走ると間もなく伊勢堂岱遺跡の案内板が見えます。小高い台地上に営まれた遺跡からは、鷹巣の町並みや遠くに森吉山の山並が望むことができます。遺跡は祭祀の性格を持つもので、最大直径45mの石のサークル(環状列石)に圧倒されます。

再び、道路を戻り森吉町米内沢から川沿いの道を東進していよいよ森吉山麓に入ります。ダムサイトに造られた道路を登ると森吉山ダム広報館が見えてきます。この建物は国土交通省による学習施設で、館内にはダム工事状況のパネルや遺跡の発掘調査で見つかった土器、石器が展示され、見応え十分です。館の外に立つと眼下にダム工事の状況が一望できます。

館を後にダム工事現場へと下って行くと、行き交う大型ダンプが砂塵を舞い上げ通りすぎて行きます。

地蔵岱遺跡は小又川沿いにあり多くの人が調査に従事しています。この遺跡は縄文時代から中世まで長く営まれた集落跡でここでは遺構の確認と精査、土器・石器の洗浄を実際に体験します。土の感触を十分に味わって、悠久の昔の生活を思い描いてみましょう。

## 順路

伊勢堂岱遺跡

森吉山ダム広報館

地蔵岱遺跡

## 伊勢堂岱遺跡(鷹巣町)

標高40~45mの台地に営まれた、縄文時代後期(約4000年前)の遺跡です。

自然石を円形に並べた環状列石が4基確認されており、当時大規模な祭礼がこの場で行われたものと考えられます。平成13年1月に国の史跡に指定されました。



## 森吉山ダム広報館(森吉町)

森吉山ダムは昭和47年の大洪水をきっかけに流域の人々を守るため、またかんがい用水や水道水の供給のため、平成13年3月から本格的な工事に着手しました。広報館は、ダム建設の情報や建設地内の埋蔵文化財発掘調査の成果などを提供すると共に、建設地の自然や風土、歴史を知ることができるようにつくられた学習施設です。館からはダム建設現場が眼下に一望できます。



## 地蔵岱遺跡(森吉町)

森吉山麓を流れる小又川沿いの台地上に営まれた縄文時代から平安時代、中世の集落跡です。住居や建物の跡、土器や石器などが多数見つっています。当時から山の幸、川の幸が豊富で人々が生活するのに適した所であったことがうかがえます。

